

刑場で処刑された人々の供養も合わせた法要が行なわれています。

お話変わり、唐丹関連では、陸前高田市の吉田大肝入文書に、この捜索に動員され、ご褒美を頂いた二十人程が書出されています。唐丹村分では、四人、肝入の儀兵衛と検断惣右衛門が金一分(二両の四分の一)組頭久五郎が錢五百文、乞食頭磯右衛門が、一貫(千)五百文を貰っています。

この物語については、昭和三〇年代迄各地で芝居として演じられていました。又、口説きを聞いたことのある高齢の人達もつい最近までおりました。

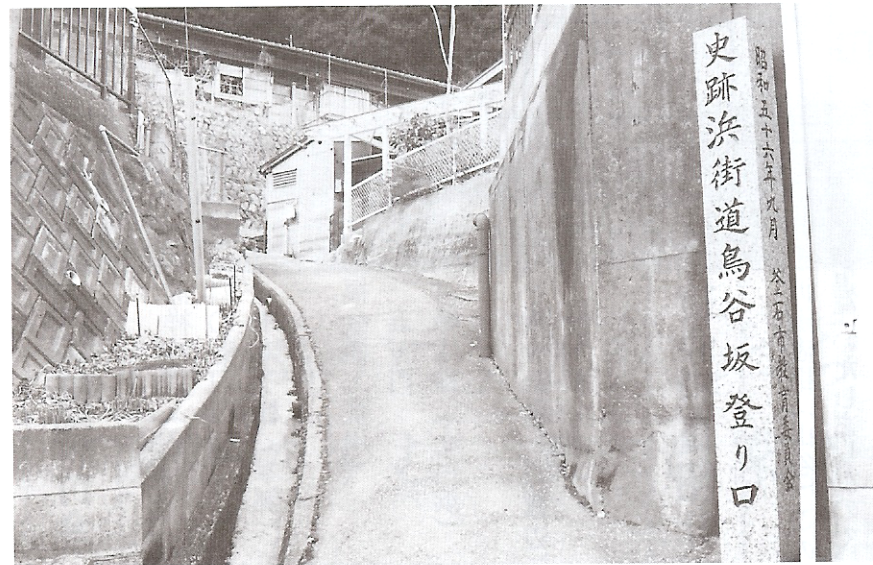
最近でこそ忘れ去られて誰も知ることのない状態になってしまいましたが、二百年以上にわたって語り継がれてきた物語をご紹介します。

- 1 三陸の昔語り第1集
- 2 陸前高田の昔語り第1集
- 3 陸前高田市吉田大肝入文書 宝歴2年定留
- 4 紫桃正隆著 北上川下流地方の歴史の夜話
- 5 紫桃正隆著 仙台藩流刑史



- 6 高倉淳著 仙台藩犯科帳
- 7 口説き写本 宮城県桃生郡 千石恒雄氏所蔵
- 8 川井村史
- 9 横道廣吉著 水を引いた男(第51回岩手芸術祭・奨励賞一席)

《写真説明》
 姫と喜右衛門がお世話になった釜石の仁助親分の家跡。
 奇しくも売りに出していた土地を子孫の故新保清美さんが知らずに購入した。
 現在長女の礼子さんが暮らしている魚市場近く釜石市東前の新保宅。



*お詫び 前回の櫛・筭(こうがい)は、お節と・喜右衛門が逃走費用にするためお金に変えたと伝わる官城県気仙沼市唐桑町の熊谷さん宅の写真ではありませんでした。
 謹んで訂正とお詫びを申し上げます。

平成二十一年 年回表

- 一周忌 平成二十年歿
- 三回忌 平成十九年歿
- 七回忌 平成十五年歿
- 十三回忌 平成九年歿
- 十七回忌 平成五年歿
- 廿三回忌 昭和六十二年歿
- 廿七回忌 昭和五十八年歿
- 卅三回忌 昭和五十二年歿
- 卅七回忌 昭和四十八年歿
- 五十回忌 昭和三十五年歿